2019年7月吉日

ライオンズクラブメンバー各位

　　　　　　　　　　　　　　　　　　ライオンズクラブ国際協会333-C地区

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　地区ガバナー　小髙　左起子

　　　　　　　　　　　　　　　　　公益社団法人　日本網膜色素変性症協会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　副理事長　　　塚田　雅二

　　　　　　　　日本網膜色素変性症協会支援趣意書

日本網膜色素変性症協会（JRPS）は1994年千葉大学眼科の要請に応じ333-C地区有志クラブの支援により誕生しました。

　患者、学術研究者、支援者が一体となって網膜色素変性症と言う難病の治療法開発を目指しています。

　学術会員のお骨折りにより毎年研究論文を募集し、入賞者には１位200万円、２位100万円、ライオンズ賞（若手研究者対象）100万円の合計400万円の研究助成金が贈呈されて来て居り、当地区内各クラブの寄付金は全てこの資金に充当されて居ります。

　これにより日本での目の病気に対する治療法開発の研究は急速に進捗し、世界で初めてiPS細胞の移植にも成功して居ります。

　然し、網膜色素変性症の原因遺伝子は約２００個にも上るとされるため、治療法の開発には全国レベルでのデータベースの構築が必要とされる等、この難病の治療法開発はこれからが勝負の時期でもあります。

　当地区のこの輝かしい奉仕の実績をこれからも継続して行くために、今年もチャリティ行事を開催することと致しました。

　何卒ご理解、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。